

株式会社 ベクター

第33期 第2四半期決算

(2020年4月1日～2020年9月30日)

説明資料

業績の状況

(百万円)

Vector

第33期2Q累計実績・・・予想比・前期比

	業績予想	実績			予想対比	
	2Q累計	1Q	2Q	2Q累計	差額	増減率
営業収益	375	207	276	483	+108	28.8%
営業利益	▲45	▲15	15	▲0	+45	— %
経常利益	▲42	▲12	19	7	+49	— %
純利益	▲42	▲12	12	▲0	+42	— %

	第32期						第33期			前期対比	
	1Q	2Q	2Q累計	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	2Q累計	差額	増減率
営業収益	283	223	506	236	207	949	207	276	483	▲23	▲4.5%
営業利益	25	14	39	6	▲9	36	▲15	15	▲0	▲39	— %
経常利益	25	11	36	11	▲6	41	▲12	19	7	▲29	▲80.1%
純利益	27	7	34	11	▲6	39	▲12	12	▲0	▲34	— %

第33期第1・2四半期の状況

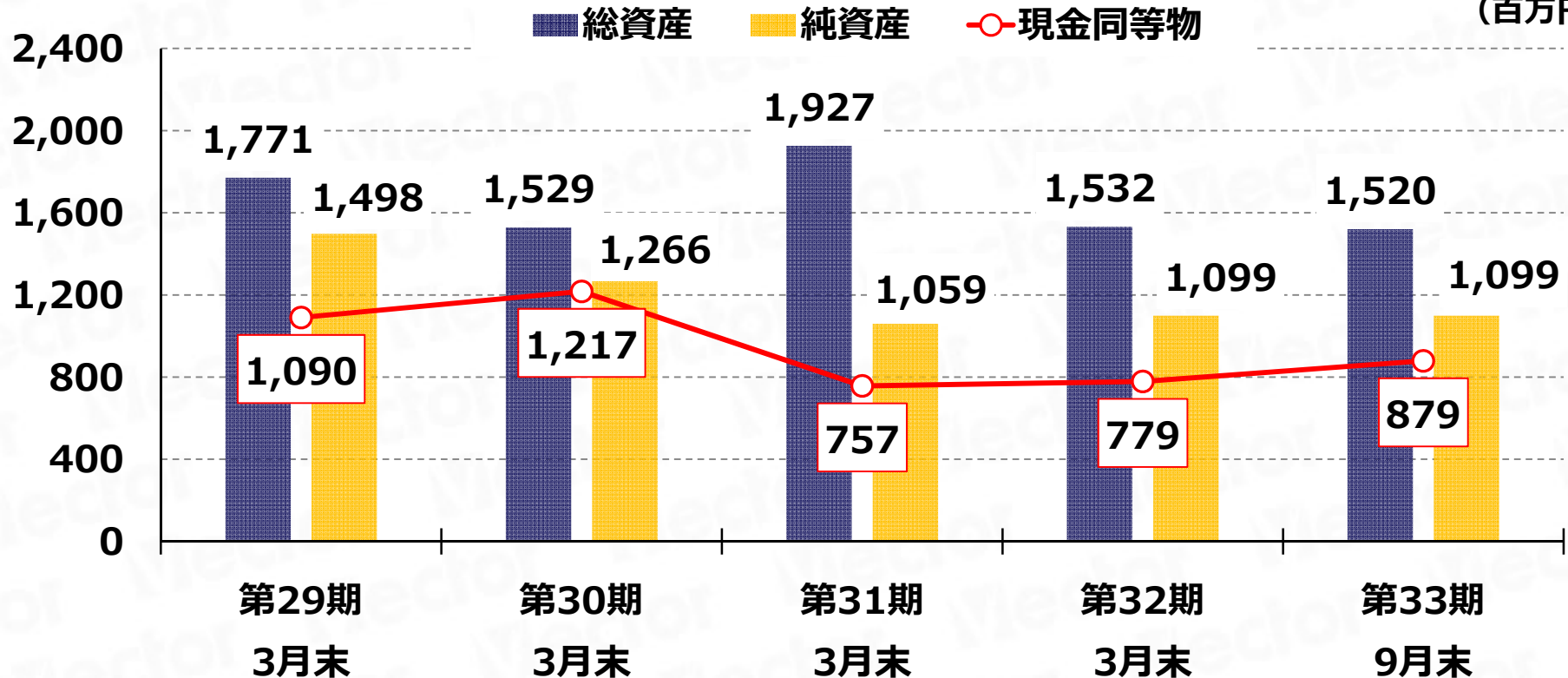


- コロナウィルスの影響により営業収益に与えた影響は、下振れした売上項目はあったものの、在宅勤務者が増加したことによるソフトウェアの需要が一時的に高まったことで、ソフト販売が好調に推移した。
- 第2四半期（7～9月）では、ソフト販売事業の特価販売施策がSNSを介して口コミで話題となり、当初の予想より大幅に上振れする結果となった。これにより営業利益も大幅に改善した。
- 新規事業については、開発計画の通りに進捗しているがローンチには至らず、営業収益を計上することなく営業費用のみが発生する状態が続いている。
- App Passの受託収益については、ソフトバンクからの委託件数の減少により減少傾向が続いており、営業利益も同様に推移している。

総資産・純資産推移(直近5期)

Vector

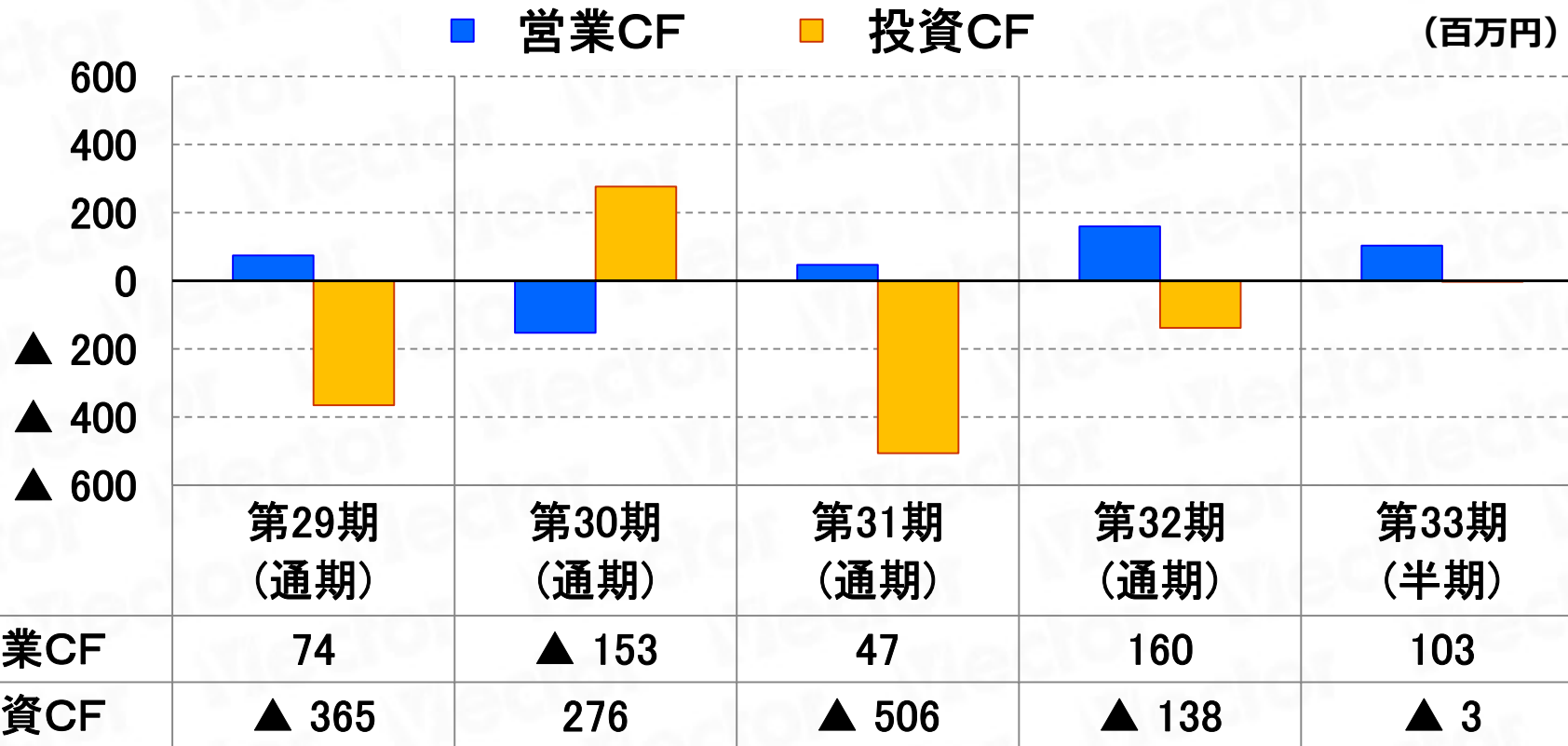
(百万円)



トピックス

無形固定資産（「App Pass」のシステム設備）の減価償却費の計上により、損益計算書の営業利益は赤字になっていますが、支出が伴わない営業費用のため、9月末時点の現金同等物の残高は、前期末残高より1億円以上増加している。

キャッシュ・フロー推移(直近5期)



トピックス

投資CF 内訳

	第29期 (通期)	第30期 (通期)	第31期 (通期)	第32期 (通期)	第33期 (半期)
固定資産関係	▲ 58	▲ 133	▲ 416	▲ 143	▲ 3
金融商品投資関係	▲ 307	409	▲ 90	5	0
投資CF 計	▲ 365	276	▲ 506	▲ 138	▲ 3

無形固定資産の減価償却費は、支出が伴わない営業費用のため、営業キャッシュフロー上での収支は黒字となっている。

**第32期に引き続き、第33期も「通期黒字」
達成に向けて注力します。**

**今後も、ご支援、ご鞭撻のほど
宜しくお願い申し上げます。**

本説明会及び参考資料の内容には、将来に対する見通しが含まれておりますが、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。